

1. 「警戒情報」、「避難指示」とはどのようなものかご存じでしょうか？

<実際の例> 2021年3月13日14時40分、気象庁発表 大雨危険度通知  
「大雨の影響で神奈川県鎌倉市の一部区域で土砂災害の危険が上昇しています。  
**神奈川県鎌倉市 土砂災害：警戒レベル3相当 河川洪水：警戒レベル3相当**  
危険な区域を地図で確認してください。市町村からの避難情報に十分注意するとともに、各自適切な防災行動をとってください。(黄色シャドウは防災部)

<「警戒レベル3」とは？>

- (1) 災害のおそれがあるとき、**気象庁が「警報」を出します**（「大雨・洪水警報」など）。この「警報」は、鎌倉市の防災無線、携帯電話への「防災・安全情報メール」、テレビ、ラジオ、インターネット、スマホ（防災アプリ）などで住民に通知されます。
- (2) この警報を踏まえて鎌倉市は対象地区の住民に対して**「避難を促す情報」を出します**。これが**「警戒レベル3～5」**です（下図参照）。

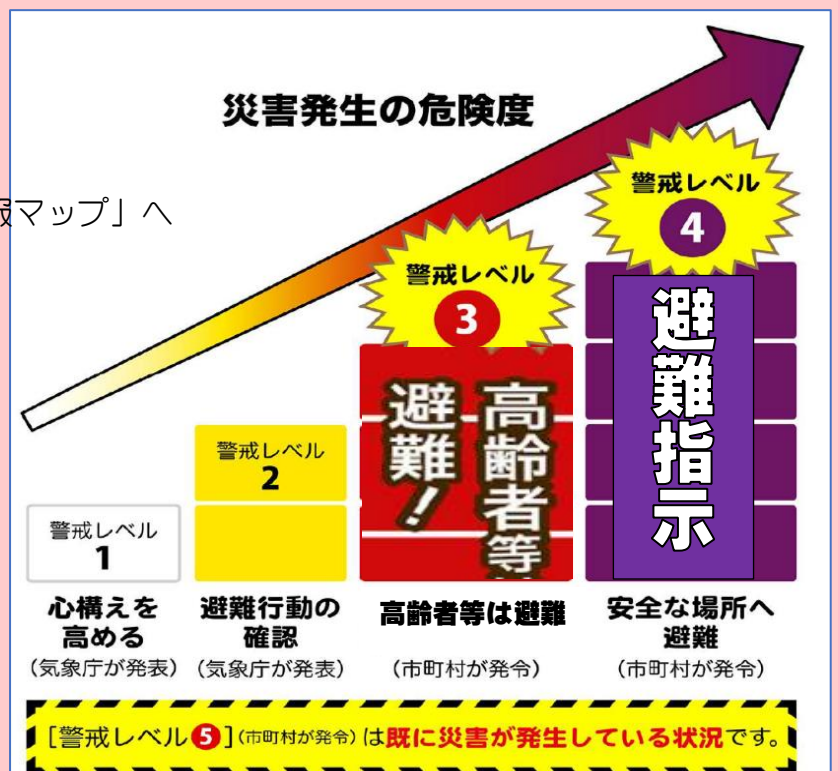
発令機関	発令内容
気象庁	警戒レベル1、警戒レベル2を発表 警戒レベル3/4相当→これに基づき鎌倉市が下記を発令
鎌倉市 (気象庁発表を受けて 市内の状況により発令)	警戒レベル3（高齢者等避難） 警戒レベル4（避難指示、速やかに避難先へ） 警戒レベル5（緊急安全確保、命を守るための最善の行動を）

- (3) 皆さんの**ご自宅は避難対象地区か否かご存じですか**。  
当町内会地区には土砂災害警戒区域（急傾斜地崩壊）があります。  
スマホ等により**「ハザードマップ」で自宅位置を確認**してください。

<鎌倉市ハザードマップ>

自宅の丁目・番地で確認できます。

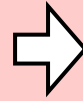
- ・パソコン  
鎌倉市ホームページの「いざというときに」から「防災情報マップ」へ
- ・スマホ  
下のQRコードから  
(画面が出た後「同意」ボタンを)



右図③④は内閣府防災情報資料を2021年5月20日付法改正施行後の用語に修正

## 2. 防災無線が聞き取りにくい方のための対策（鎌倉市HP より）

- ラジオ（鎌倉FM 82.8MHz）、ケーブルテレビ（利用者のみ）  
（防災用電池式AMFMラジオは家電量販店で2～5千円程度）
- 携帯電話「防災安全情報メール」（無料、申し込み用QRコード）
- 消防テレホンサービス（電話 0120-24-0467）



## 3. 避難できる場所（状況により異なる避難場所）

区分 場所	(1) 「避難所」 (ミニ防災拠点)	(2) 「広域避難場所」
		災害発生当初の避難場所 食料や防災機材を備蓄
<当町内会の近隣では>	市内の市立小中学校 (計25か所)	一部の小中学校、JR跡地、 源氏山公園等（計18か所）
深沢小学校・富士塚小学校	○該当	○該当
深沢中学校	○該当	○該当
鎌倉中央公園（注）	×該当しない（注）	○該当

注 鎌倉中央公園は大火災時の一時的な避難場所（上記（2）の「広域避難場所」）です。

「避難所生活」が可能なのは（1）「避難所」（小中学校）です。  
緊急時を除き、避難所・避難場所に行く場合、決して単独行動  
をしないでください。大震災直後の道路は危険です。



### 阪神淡路大震災

「寝室・スリッパ(靴)」「水と火」そして何よりも「人」

### 川島明子様（90）のご経験

**震災当時**私は神戸市内の五階建て集合住宅三階に両親と三人で住んでおりました。ガガガッ!という爆発のような衝撃後、寝室の左右の本棚が自分の上に倒れて下敷きになりました。両親も倒れた家具で部屋に閉じ込められ「大丈夫ー?」とお互いに呼び合いました。幸いけがはないものの脱出に時間がかかりました。壊れた食器やガラスが散乱し、スリッパを探して履き、後に靴に履き替えました。

**町は静まりかえって**いました。近所の道路がひび割れ、露出したガス管から炎が出ていました。消防車や救急車は来ませんでした。火事にならず半壊でも自宅に住めたこと、家族が健康で食品の備蓄があったことが幸いしました。買い置きの飲料はすぐなくなり、風呂の残り湯を簡易コンロで沸かして飲み、給水車が来るまでの数日をしのぎました。断水は約3ヶ月続きました。ご近所の方から井戸水を分けてくれるところを教えてください、バケツと未使用のゴミ袋を携え父と遠くまで歩いて行きました。若く元気だったので水を背負って歩きました。トイレは幸い詰まったり溢れ出したりすることなく助かりました。ゴミの収集も止まりゴミ袋と共に暮らしました。電気が復旧し、日が経つにつれ、被害の甚大さに言葉を失いました。母校の街は大火災、市の中心部の職場付近は瓦礫の山でした。道路は壊れて波打ち、日頃見慣れた大きな建物が倒壊したり傾いて、自分の視覚が狂ってしまったように感じました。

**給水車**の話は口コミで伝わってきました。ラジオの情報では身近な事がわかりませんでした。生き延びるために必要な情報は人から人へと伝わってきました。ご近所付き合いは大事ななと思いました。後片付けや水くみなどの震災生活でも人と人との結びつき、助け合い、ボランティアのありがたさと大切さを痛感しました。沢山の温もりに触れ、助けて頂いたこと、今も感謝しています。

**経験から学んだ震災対策**は、○寝室には倒れてくる家具や落ちてくるものを置かない。○寝る前にスリッパの位置を確認、○水・食料・日用品の備蓄、○人付き合いを心がける、○火の始末をきちんとし、常に防災を意識するということです。日頃から健康保持と体力作りをし、周囲の人とコミュニケーションを取り信頼関係を築いて協力することが大切です。実際の災害時にそれらが生きてきます。

（注 写真は（財）消防科学総合センター災害写真データベースより 川島さまご自宅とは無関係です）